

第17章 環境教育

本市が将来の世代にわたり持続的に発展するためには、過去の経験やこれまでの蓄積を活かし地球環境や国際社会をも視野に入れながら、行政のさまざまな施策に環境との共生という視点を反映させるとともに、市民、事業者がそれぞれのライフスタイルや事業活動を環境に配慮したものに転換する必要がある。このような考えから、環境情報の整備や提供、人材の育成など、より良い環境づくりへの実践活動ができるよう環境教育を生涯学習と位置づけて体系的、持続的に展開している。

さらに、平成8年2月には、環境保全に関する知識・情報の普及、実践活動の支援を行うため、尼崎市環境基金を設置し、各種事業を継続的、計画的に実施している。

一方、国においても平成15年7月に環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律が制定され、環境教育の推進、自主的な環境保全活動の促進に関するより具体的な法的基盤が整備された。

第1節 環境教育推進基本計画

本市にふさわしい環境教育についてのあり方を明確にするとともに、環境問題に関する普及啓発や学習機会の提供、環境教育（学習）の場の提供など、市民等の主体的な実践活動を支援するための施策を総合的、体系的に推進するために、行政内部の指針として尼崎市環境教育推進基本計画を平成4年度に策定した。

また、平成14年度に尼崎市環境基本計画を策定し、目標達成に向けての具体的な施策として「環境教育・環境学習の推進」を定め、これに基づき取り組みを進めている。

第2節 期間事業

1 環境月間

昭和48年から世界環境デー（6月5日）を初日として「環境週間」が設けられ、平成5年11月に制定された環境基本法で、6月5日が「環境の日」と定められた。平成3年度からは毎年6月を「環境月間」として、平成22年度も環境問題への関心を高め、環境保全のための行動に向けた啓発のために、全国でさまざまな行事が取り組まれた。

本市においても「エコあまフェスタ2010」（6月19日）を開催し、広く市民に環境に関する啓発を行った。

2 大気汚染防止強化期間

高濃度の大気汚染が発生しやすい冬季における窒素酸化物排出量を抑制するため、11月～1月までの3か月間を「大気汚染防止強化期間」とし、暖房温度の適正化やボイラー等ばい煙発生施設の適切な燃焼管理の徹底、貨物自動車等業務用車両の適正な運行管理の徹底、不要・不急の乗用自動車の使用自粛を市報等で事業者や市民に呼びかけている。

第3節 実践活動

1 あまがさき環境オープンカレッジ

環境基本計画の目指す「環境と共生するまち・あまがさき」を育てる人づくりを目的に、市民・学校・企業・行政の協働のもと、環境に関連した幅広い分野の学習・体験メニューを揃えた環境の学びの場として、平成22年度に「あまがさき環境オープンカレッジ」を開校した。

(1) あまがさき環境オープンカレッジ実行委員会

実行委員会は、市内環境団体や教育機関等から選出された30名の実行委員（うち幹事14名、うち事務局3名）で構成される（平成23年3月現在）。平成22年度は総会1回、幹事会11回、事務局会議23回を開催し、その他、各事業のワーキングチーム会議を必要に応じて開催した。

(2) 環境学習講座の開催

環境に関する理解と認識を普及啓発し、自主的な活動を促進するため、様々な環境学習講座を開催している。平成22年度は全29回の講座を実施した。（実施講座については第17章第3節4参照）

ア あまがさき環境塾の開催

「環境を知る人から行動する人へ」をテーマに、環境にやさしい生活や身近な環境づくりを実践し、自らが環境保全活動のリーダーとなれる人材を養成するために、平成4年度から市民を対象に「あまがさき環境塾」を開催している。平成22年度は、あまがさき環境オープンカレッジの開校を受け、その主催講座として、尼崎の環境の歴史や現状、地球温暖化と異常気象などをテーマとする全5回の連続講座を実施し、全参加者のうち10名が修了した。



環境塾の修了生は環境活動グループを結成したり、環境に配慮した生活を実践するなど、様々な環境活動を実施している。

イ 環境教育事業の実施

市民・学校・企業・行政で組織するあまがさき環境オープンカレッジ実行委員会では、広く市民等を対象に、地球温暖化問題や自然体験講座などの環境普及啓発活動を行っている。

オープンカレッジ実行委員会が企画・運営する主催講座、企画を市内環境活動グループから公募し協働で実施する共催講座を、平成22年度には29講座（うち、あまがさき環境塾5講座）を実施した。（表 - 167）

表 - 167 平成22年度 あまがさき環境オープンカレッジ主催講座・共催講座

	内容	主催
主催講座	AOCE 開校記念交流会	あまがさき環境 オープンカレッジ実行委員会
	エコあまキッズ「尼っこホテルを探る」	
	エコあまキッズ「農業公園ヒメボタル鑑賞」	
	エコあまフェスタ 2010	
	エコあまキッズ「尼崎港の生き物観察」	
	エコあまキッズ「竹で水鉄砲を作ろう」	
	打ち水大作戦	
	エコあまキッズ「野菜工場見学」	
	エコあまキッズ「ソーラーメロディーハウス」	
	エコあまキッズ「省エネ実験いえコロジー」	
	エコあまキッズ「親子エコクッキング」	
	潮小学校ピオトープ見学会	
	秋のあまチャリ エコサイクリング	
	成良中学校屋上緑化見学会	
	環境学習バスツアー	
	映画「未来の食卓」映画鑑賞会	
	環境塾第1回「尼崎の歴史と環境」	
	環境塾第2回「尼崎の現在の環境」	
環境塾第3回「尼崎の自然環境と生物多様性」		
環境塾第4回「地球温暖化と異常気象」		
環境塾第5回「協働型環境活動」		
共催講座	親子エコクッキング	尼崎消費者協会
	夏休みクラフト教室	自然と文化の森協会
	お店で探検環境ウォッチング	尼崎コープEARTHくらぶ
	尼崎の森づくり体験講座	アマフォレストの会
	親子で学ぼう!楽しくエコロジー	尼崎地区地球温暖化防止活動推進会
	親子エコクッキング	食育サポーターの会
	すき間緑化ミニフォーラム	尼崎南部グリーンワークス
	日常生活から環境リテラシーを身につける	NPO法人 建物保全協議会



尼崎の森づくり体験講座



エコあまキッズ
「尼崎港の生き物観察」



親子で学ぼう!
楽しくエコロジー

(3) 「エコあまフェスタ2010」の実施

平成22年6月19日に塚口さんさんタウン2階スカイコムで、環境活動グループ及び企業、行政等が協働により「あまがすき みんなでやろう エコなこと」をテーマに、エコあまフェスタ2010を実施した。22グループが環境クラフト教室や環境クイズなどのブースの出展を行うとともに、リサイクル楽器演奏やリフォームウェアのファッションショーなどのステージを行った。また、自転車発電によりLEDを点灯させるなどの人力発電体験コーナーを設置した。入場者約1,600人。

(4) 「打ち水大作戦inあまがさき」の実施

平成22年7月30日に雨水等の二次利用水を使用し、約50人の参加者と竹の水鉄砲や柄杓を用いて、橘公園にて打ち水を実施した。また、市施設や市内事業所、学校等にも実施を呼びかけ、市内各所で打ち水を行った。

(5) 「市民が創るあまがさき環境白書」の作成

環境基本計画の実施状況や取組みについて、公募による市民とあまがさき環境オープンカレッジ実行委員で調べ、親しみやすいクイズ形式の「あまがさきグリーンレポート」を作成した。



(6) 環境情報誌「あまがさき通信」の発行

市内で開催される環境学習講座・イベントのお知らせや、市内の環境情報などを広報する情報誌を発行している。毎月発行し、市内の図書館や公民館、地区会館で配布する他、ホームページにも掲載している。平成22年度は毎月号12回、特別号2回、講座開催に合わせて号外を発行した。また、希望者には「あまがさき通信メール版」として、環境学習講座・イベント情報のメール配信を行っている。



(7) ホームページの開設

平成22年4月より、活動内容や講座情報を広く広報するため、あまがさき環境オープンカレッジのホームページ (<http://aoce-amasuki.jp/>) を開設している。

2 環境保全の啓発・活動支援事業

尼崎市環境基金の運用益で、ごみの減量化・再資源化や環境学習の推進など、環境問題に関する普及啓発事業及び民間活動の支援事業を行った。

(1) 環境学習会講師派遣制度

市民グループ等が自主的に開催する環境学習会に講師を派遣する制度（講師費は市が負担）を平成8年度に発足させた。平成22年度は地球温暖化問題に関する研修会や、子ども向け自然観察学習会などに4回講師を派遣した。

(2) 環境学習支援用品の貸し出し

市民等が環境調査を行う際に役立つ水質検査キットや双眼鏡、虫・魚取り網などの器材のほか、環境啓発パネル、約2,100冊を越える環境図書の整備・充実を図っている。平成22年度は、環境図書の貸出は163冊、双眼鏡等の環境学習機材の利用件数は46件であった。

(3) 環境に配慮した生活の支援

市民が環境に配慮した生活に向けての実践的な行動力を身につけることを目的とし、生ごみたい肥化容器など（17件）の購入費の一部を助成した。

(4) 市民工房事業

資源リサイクルセンターにある市民工房の事業として、6月のエコあまフェスタ（塚口さんさんタウン）、9月のたちばな祭り（園田学園女子大学）、11月の小田支所地域活動ボランティアまつり（小田地域振興センター）、3月のおう桜まつり（尾浜商店街）等のイベントに合わせて「リサイクル出前市民工房」を4回開催し、ごみ減量・リサイクルについての啓発を行った。

(5) 環境保全パートナーシップ事業

市内の環境活動グループ等が環境啓発・学習を目的とした環境保全活動を提案し、市が会場費、講師謝礼、保険料等の負担や市民への広報を担うなど、環境活動グループと市とが協働で事業を実施する。講演型だけでなく、自然観察やネイチャーゲームなど、市民が身近なテーマを選び、講師となり、実体験を通じて伝える形式の環境啓発事業が実施された。

平成22年度に実施された事業は以下の4件の事業である。（表 - 168）

表 - 168 平成22年度 環境保全パートナーシップ事業

内容	主催グループ
春のエコハイキング	自然環境クラブ
秋のエコハイキング	自然環境クラブ
鳥と遊ぼう～バードウォッチングをしよう～	あまがさきおとなエコクラブ
自然発見！君はネイチャーガイドキッズ・集まれ！上坂部西公園	ひょうご尼崎ネイチャーゲームの会



春のエコハイキング



バードウォッチング



ネイチャーゲーム

3 消費者活動の推進

本市では、地球環境をまもる消費者活動を推進するため、「くらしいきいき巡回講座」の一環として、古紙を利用した紙すき等のリサイクル教室を開催している。また、不用品の譲渡し及び譲受けの希望を登録して不用品の有効活用を促進し、ごみ減量と資源保護に役立てる「リサイクル情報バンク」を運営している。さらに、尼崎消費者協会が主催するマイバッグ運動や牛乳パック回収の推進のほか、「エコフェスタ」等の環境問題に関する取り組みを支援している。



古紙を利用した紙すき教室

4 あまがさきの身近な自然写真展の開催・カレンダーの作成

自然への理解と関心を高め、残された身近な自然をまもるために野鳥、昆虫、花木など身近な生き物や自然的な風景など「あまがさきの身近な自然」をテーマとした写真を平成元年度から募集している。22回目となる平成22年度は326作品の応募があり、このうち優秀作品を表彰・展示するとともに、入選作品の一部を使ってカレンダーを作成した。このカレンダーは市内の学校、公民館等の公共施設をはじめ、広く市民にも配布している。



あまがさきの身近な自然
カレンダー2011年版

5 こどもエコクラブ

こどもエコクラブは、次世代を担う子ども達の環境保全意識の向上を図り、自らが自主的かつ積極的に環境保全活動を行うことができるようにという趣旨で、環境省が平成7年度から実施している（平成23年度より、(財)日本環境協会が引き継ぐ）。対象は幼児から高校生までのグループで、平成22年度は市内から10グループ（278人）が登録し、エコクッキングや農業体験など、様々な活動を行った。

6 ルーム・エコクラブの運営

環境問題に関する情報の提供、環境学習に関する相談など市民の方々の環境保全活動を支援するため、ルーム・エコクラブを平成9年度に開設した。

市民の環境学習や環境保全活動の拠点として、広く活用されている。

(1) 所在地

尼崎市東七松町1丁目23 - 1 市役所本庁舎中館9階

(2) 利用時間

月曜日～金曜日 午前9時～午後5時30分
(祝日、振替休日、年末年始は除く)

(3) 概要

環境関係図書の貸出、環境学習器材の貸出、ミーティングスペースの提供、市内環境活動グループの活動状況や環境イベントなどの情報発信、環境保全活動や環境学習会開催等の相談など



ミーティングスペース



環境関係図書の貸出



環境学習器材の貸出